

(様式1)

令和5年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

学校整理番号	特5
学 校 名	青森県立八戸聾学校
対象障害種別	聴覚

自己評価実施日	令和 5年 12月 11日(月)
学校関係者評価実施日	令和 6年 2月 8日(木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校運営協議会委員 11名

(1) 学校教育目標	個々の障害の状況と心身の発達に応じた教育活動をととして、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図るとともに、人間性豊かにたくましく生きる幼児児童生徒を育てる。(1)意欲的で自主性のある子 (2)豊かな情操を持ち、協調性のある子 (3)健康で、たくましく生きる子 (4)豊かにコミュニケーションできる子
------------	--

(2) 現状と課題	(現状) 在籍幼児児童生徒数20人前後の小規模校であるが、子どもの教育的ニーズが多様であり、きめ細かな対応が必要である。聴覚障害教育の充実に取り組みつつ、地域の特別支援教育のセンターの機能を果たしている。人事異動による在勤年数の減少に伴い、聴覚障害教育の専門性の維持・継承が難しくなっている。 (課題) 将来的に地域で自立した生活ができる人材を育成するために、八戸聾学校の特色を地域に知らせ、地域の中で活動できるようにするために地域の理解と協力を得るところが不十分である。
-----------	---

(3) 重点目標	1	運動の習慣化と体力の増進、健康に関する知識と技能の定着、食育の充実、危険を予測、回避する能力の育成により、健康で安全な学校生活を送れるようにする。
	2	基礎的・基本的な学習の定着、探求的な学び、興味関心を広げる学習により、授業の充実を図る。
	3	道徳教育の充実、自己有用感、自己肯定感を高める学習活動、互いの良さを認め合える活動、自分を表現できる力の育成により、豊かな心とコミュニケーションを養う。
	4	保護者と連携した教育活動、学校運営協議会の学校運営への参画、地域資源を生かした学校行事や校外活動、障がい理解のためのゲストティーチャー派遣、教育相談により、地域貢献を図る。
	5	キャリア教育の充実、情報化や国際化に対応する教育の推進により、時代のニーズに応じた教育の推進を図る。
	6	業務の仕分けと整理整頓、年休の計画的消化の促進により、働きがいのある教員の働き方について改革を推進する。
	7	服務規律を遵守しつつ、学校組織としての在り方を共有し、実行力(成果責任と業務遂行責任)の向上を図る。

(4) 結果の公表	学校運営協議会委員や保護者、教職員には、結果を書面で配付し、学校運営協議会や保護者集会、職員会議で説明した。その他に学校のホームページで公表する。
-----------	---

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	・運動の習慣化と体力の増進 ・健康に関する知識と技能 ・危険を予測、回避する能力	朝の時間や体育で運動する機会を確保すると共に、健康観察や給食等で健康に関する指導を行う。	朝や体育での運動、運動後の汗の始末や手洗い、食事の取り方を指導することにより、自分でできることや考えることが増えてきた。	B	幼児児童生徒の食事量や栄養のバランス、好み等を考慮した給食や寄宿舎の食事が提供されている。	気候の変化や行事があると体調を崩すことが見られるため、気温に応じた服装や汗の始末などを徹底する必要がある。
2	・基礎・基本的な学習の定着 ・興味・関心を引き出す授業 ・主体的対話的で深い学び	実態を的確に把握し、興味・関心のある学習を取り入れ、ICTを活用した繰り返しの学習を行う。	体験活動を多く取り入れると共に、校内研究の一環として教員全員が授業を見合うことを通して、授業を改善することができた。	B	聴覚障害教育の専門性の維持・継承が図られている。今後も維持・継承の継続が大切である。	全教員が授業研究に取り組み、教科指導やICT活用のスキルの向上を図る。また、地域の人材をさらに活用する。

3	・自己有用感、自己肯定感 ・互いの良さを認め合う ・自分を表現できる力	道徳の時間や特別活動、その他の教科でも学習する機会を設定する。	自分の良さや相手の気持ちを考える機会を設定することで、自信をもって活動したり、相手を気遣ったりする様子が見られた。	B	複数で活動することで他の人のよさを感じることがあり、コミュニケーションの力を育てることもつながる。	自己有用感や自己肯定感を十分に評価できていない。評価方法を検討し、互いを認め合う活動を今後も実施する。
4	・保護者と連携した教育活動 ・学校運営協議会の参画 ・地域資源を生かした活動	校外学習や外部講師による学習、学校運営協議会における熟議の推進を行う。	学校運営協議会でこどもたちが要望を伝え、教員や保護者、地域住民による熟議により、地域での活動を推進することができた。	A	教員や保護者、地域住民を交えて熟議を行ったことで、協働して学校づくり取り組んでいる。	地域の特色を知ることや地域を活用するところが不足しているため、地域のことを全校体制で学ぶ機会を設定する。
5	・キャリア教育の充実 ・情報教育の推進 ・国際理解教育の推進	キャリアパスポートを活用して将来を考えると共に、ICT活用による情報収集に努める。	校外に出かけての調べ学習、ALTによる外国語活動、ICTを活用した学習などを活発に取り入れ、推進することができた。	A	ICTを積極的に活用して将来のことや地域のことを調べ、実際に体験することで学習が充実されている。	地域で自立した生活を営む人材を育成するために、学校で教育できることを整理し、学齢に応じて指導する必要がある。
6	・業務の仕分け ・整理整頓 ・年休の計画的消化	二つ以上の業務の削減や縮小、年間16日以上の子休の取得を推進目標として設定する。	業務を精選し、効率よく業務を行うことに努めた。職員の9割以上が年休16日以上を取得することができた。	A	時間外勤務時間もさほど少なく、年休取得も目標達成されていることから、健康面に配慮されている。	来年度に向けて学部や分掌で二つ以上の業務削減が提案されている。着実に実施することで業務を削減する必要がある。
7	・服従規律の遵守 ・学校組織の在り方の共有	服従規律に関する資料を提示して徹底を図ると共に、職員室で気軽に話し合える雰囲気醸成する。	授業でのこどもの様子を職員室で語り合い、授業を見直す機会が得られていた。交通違反や体罰やセクハラなどの行為はなかった。	A	職員室の雰囲気が悪くなく、教員間の同僚制性がある程度保たれ、教員としての服従規律が遵守されている。	携帯電話のマナーモード設定、個人的なことを大声で長時間話さないなど、職員室内のマナーの向上が求められる。
(11) 総括		児童生徒、保護者、教職員（教員、寄宿舎指導員）によるアンケートを4件法で実施した。児童生徒の評価が平均3.60、保護者の評価が平均3.71、教員が平均3.59、寄宿舎指導員が平均3.87で、いずれも段階評価Aという高評価であった。今後は、学校運営協議会を効果的に活用しつつ、教育活動に地域の特色を探る学習を取り入れ、地域の中で生きる力を育成することを推進する。				